

演 題	男性に楽しんでもらえる レクリエーションは？
副 題	グループ活動を取り入れて

フリガナ	コウフアイカワケアセンター
施 設 名	甲府相川ケアセンター
フリガナ	カイゴフクシシ マエダ タクヤ
発表者(職名・氏名)	介護福祉士 前田 卓也
フリガナ	ツウショリハビリテーション ショクインイチドウ
共同研究者	通所リハビリテーション 職員一同

【目的】

当施設通所リハビリテーション職員より、「男性利用者をレクに誘っても断られてしまう」「男性利用者とのレクが盛り上がらないで終わってしまう」などの悩みが度々ミーティングであがっていた。

近年男性利用者が増え、登録者の約半数となっており、現状のレク提供方法見直しの必要性を感じ、男性も楽しんでもらえるよう、興味関心に基づいたグループ活動の取り組みをした結果を報告する。

【方法】

- 1) 男性利用者 40 名に、15 項目の活動に対して、興味、関心を○×記入式のアンケートを実施。
- 2) アンケートの結果から複数人が興味を示した項目を 3 グループに分け活動内容を選定。
- 3) 10 名の職員を 3 グループの活動に振り分け、実際の提供方法の立案、必要物品の準備。
- 4) 男性利用者の興味がある活動リストを作成して、利用毎に声掛けをして取り組んでいただく。
- 5) グループ活動の実施状況を定期的に評価して必要に応じて活動の内容を変更していく。
- 6) 男性利用者へグループ活動に取り組んだ感想や楽しみの時間になっているかをアンケート調査。

【結果】

興味、関心のアンケート結果からは、①運動をしたい。②他の方とゲームを楽しみたい。③認知症予防や生涯学習をしたい。3 グループの活動内容に分類することができた。

- ① 運動グループには、体操形式の運動や自宅でも取り組める内容の運動をリハビリ課と連携して決め、約 20 分間のメニューで実施した。取り組み前までは、レク活動に参加が少なかった方もリハビリに対しては意欲的な方が多く、ニーズを捉えた提供内容となり、運動を主導する職員も利用者の盛り上がりを感じながら提供ができた。
- ② ゲームグループには、興味が多かった麻雀、将棋、囲碁について物品の準備、落ち着いてゲームが楽しめる環境づくりを行い、ゲームでは今まで交流がなかった方々が話をするきっかけ

けになり、麻雀では片麻痺の方が牌を積み込む際に、利用者同士で手伝う姿やゲームを通じて他者との交流が活発になり、利用が楽しみになったと声もいただいた。また、くつろぎのスペースを設けることで、自然と人が集まるようになり、職員が声掛けをしなくても、利用者同士で麻雀などのゲームを始め楽しんでいた。

- ③ 認知症予防、生涯学習グループには、利用者ごとに計算や脳トレの内容でワークファイルを作成して取り組みと、クイズ形式でのレクリエーションを行い、当初は 10 分間ほどで、集中が切れてしまいワークをやめてしまう方が、回数を重ねるごとに取り組む時間も増え、自宅でも行いたいと積極的な変化がみてとれた。

【まとめ】

今回男性利用者を対象にしたグループ活動の取り組みでは、利用者ごとに興味関心が明確になり、希望の活動を提供することで、今まで受動的にレクリエーションに参加していた方が、楽しみながら主体的に活動を行うようになる変化がみられた。

各グループの担当職員ごとに活動の実施状況の評価を行い、必要に応じて提供方法の修正とその結果を共有することで、職員間でレクリエーションの提供目的が統一でき、当初あった職員の男性利用者に対するレク提供の不安は軽減され、ミーティングでは活発な意見交換が行われるようになった。

課題点では、既存の集団を対象としたレクリエーションと並行してグループ活動を実施することも多々あり、個別活動に関わる職員が、複数の業務を兼務しながらの状況になることで、活動に支援が必要な介護度が高い利用者に対しては、自立度が高い方と比較して、実施頻度が少なくなってしまった。また、運動グループからは、活動内容に体操が多く新しくなにかをしたとは感じないなどの意見もあった。業務面と活動内容の選定には課題が残ったが、最終的に実施したアンケート結果では、好評な感想が全体の 7 割と高くあり、当初の目的は概ね達成できた結果となった。